

はあと

メディカルインフォメーション

第119号

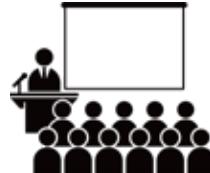
2024年1月31日

発行：東京臨海病院
東京都江戸川区臨海町1-4-2
電話 03-5605-8811(代表)
FAX 03-5605-8113
発行責任者：臼杵二郎
編集：広報委員会/診療情報管理課

令和6年1月1日の石川県能登地方で発生した地震により被災された皆さま、避難生活をされている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。皆さまの安全と被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

【地域医療連携情報交換会】～顔の見える連携～

令和5年11月24日（金）、新型コロナウイルスの流行拡大のため中止となっていた【地域医療連携情報交換会】を、4年ぶりに開催いたしました。



講演の第1部は、当院産婦人科安藤智部長より「当院の産婦人科の現状と今後の展望」として、産婦人科の紹介や実績・今後のビジョンを、また産婦人科病棟の飯島香代子師長より、当院で昨年7月からスタートした産後ケアについての報告がありました。産後ケアは生後4ヶ月未満の乳児がいるお母さんへのサポート体制で、江戸川区在住であれば区からの補助を受けられます。スタート時から多くの利用希望があり、ご好評をいただいています。

続いて第2部は、連携医療機関である訪問診療わっしょいクリニックの緒方彩人院長先生より「ICTを使った新しい地域連携の形～臨海ネットがみんなのお悩みを解決します！～」という演題で、当院が導入している「臨海ネット」システムについてお話をいただきました。「臨海ネット」とは、患者さんの同意を得た上で、十分なセキュリティ環境の元、東京臨海病院での患者さんの診療・治療の記録（電子カルテ）をかかりつけ医の先生が診察室などで直接見ていただけるシステムです。講演では、今後の医療業界の課題であるデジタル化の必要性や、医療DXのメリットをわかりやすく説明していただきました。システムの提供側である我々スタッフも目からウロコが落ちる内容であり、「こんな活用方法があるのか！」と、とても勉強になりました。

講演後、同日開催された当院看護部主催の看護連携会議と合同での懇親会があり、多くの近隣医療機関や施設・事業所の方々にご参加いただき、お互いの顔を見て情報交換ができ、より一層の連携を深めることができました。

今後も地域医療連携機関との信頼関係を確立するとともに、江戸川区の基幹病院としての機能強化を図り、地域医療の充実と発展に貢献するため尽力してまいります。



神田 大副院長



訪問診療わっしょいクリニック
緒方 彩人院長先生



産婦人科 安藤 智部長



産婦人科病棟 飯島 香代子師長

■ BLS (Basic Life Support) 研修を9月8日に実施しました

当院は、病院教育委員会が主催し病院職員を対象に、**一次救命処置研修（BLS 研修）**を実施しています。

一次救命処置（BLS）とは、心臓や呼吸が止まっている場合に最初に実施する処置のことで、正しい知識と適切な処置の方法を知つていれば誰でも行うことができます。突然目の前の患者さんの呼吸が止まった、呼びかけに反応しなくなつた等に遭遇した場合は、病院職員は誰でも速やかに一次救命処置を実施し、対応することが求められます。

研修の内容は、反応の確認、AED（自動体外式除細動器）の使用方法、胸骨圧迫（心臓マッサージ）の実際、呼吸を補助するバックバルブマスクの使用方法などです。また、研修の前後では、知識確認のテストを実施し必要な知識が得られたかの確認もしています。

一次救命処置は一般市民の方でも行うことができますが、当院では病院職員が正しい知識と方法を理解し、処置を実施できるよう日本救急学会認定のディレクターの医師を講師、インストラクターを実技指導の担当者とし、日本救急医学会認定の一次救命処置研修として教育を行っています。



■ X'masコンサートを開催しました

12月7日(木)、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止していたX'masコンサートを、4年ぶりに開催しました。今年は、ピアニスト 大杉祥子（おおすぎ さちこ）さんによるコンサートでした。幻想即興曲、ラプソディ・イン・ブルー、クリスマスマドレーなど全8曲を演奏していただきました。



臼杵病院長
司会の皮膚科阿部部長と
記念撮影

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、“肺炎マイコプラズマ”というとても小さい細菌が原因で起きる感染症です。かつてはオリンピックがある年に流行した為、オリンピック病などと呼ばれることがありました。しかし、近年ではその傾向はなくなっています。

今年度は感染者が多く、現在も流行が続いています。肺炎とはいえ基本的には問題なく回復することがほとんどですが、脳炎・脳症、心筋炎、血液凝固障害などの合併症を引き起こすことがありますので、注意が必要です。潜伏期間は通常2～3週間で、最初は発熱、全身倦怠、頭痛などで咳は3～5日後から始まることが多く、経過に従い咳は徐々に強くなり、解熱後も長く続く傾向があります。



ワクチンはありませんが、抗菌薬治療が有効です。主な感染経路は接触感染や飛沫感染で、友人間や兄弟間など



濃厚な接触により感染します。咳が出るときはマスクをつけ、手指消毒などを

行いましょう。
風邪かなと思っていても、咳が強くなるなど変化がある場合は、医療機関を受診しましょう。

守ろう! せき

咳 エチケット

- ① 咳・くしゃみをする時は、人がいる方を向かずに1メートル以上離れてから。
- ② 咳・くしゃみが出る時はすぐにマスクをつけましょう！
- ③ マスクがない時は、ハンカチやティッシュを口にあてましょう！
- ④ 鼻水・痰がついたティッシュはすぐゴミ箱へ！

鼻をかんだあとなどはすぐに手を洗いましょう。



咳エチケットにご協力をお願いいたします。マスクは【自動販売機】と【1階売店】で販売しております。



院内にて無料 Wi-Fi がご利用できます

【利用可能エリア】 ◆外来： 受付・会計窓口、診療科待合、他
◆病棟： 各病棟、デイルーム、他
◆その他： 健診医学センター



病院ホームページ

面会について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、面会制限を実施しております。今後の状況の進展により対応の変更が生じると思われます。来院の際は、ホームページにて最新情報を確認くださいますようお願いいたします。

休診のお知らせについて

当院ホームページにて、休診のお知らせを掲載しております。ご予約以外で受診される際ご確認をお願いいたします。また、医師の急な都合により、休診情報を掲載できない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

★詳しくは病院ホームページをご覧ください <http://www.tokyorinkai.jp/>



Facebook

「東京臨海病院公式 Facebook」

東京臨海病院では Facebook ページで、病院の院内・院外活動について情報発信を行っています。

「4C 病棟インスタグラムはじめました！」

4C 病棟（産婦人科病棟）でインスタグラムをはじめました。
フォローよろしくお願いします！



@TOKYORINKAI_SANKA

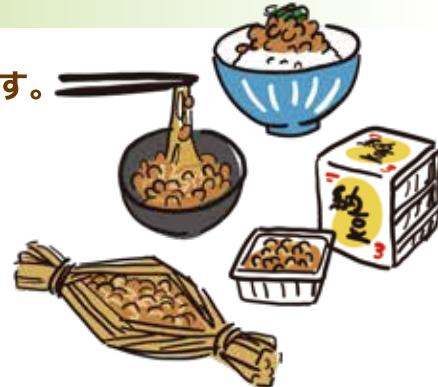
【2・3・4月の土曜診療日】 2月10・24日、3月9・23日、4月13・27日

■受付時間 ■午前8時～午前10時30分 原則として予約診療はいたしません。

今回は食卓の定番アイテムの一つである【納豆】についてお伝えします。

●納豆の歴史について

納豆の起源については、様々な説があり定かではありません。弥生時代には納豆に近いものができていたという説があります。納豆菌が付着した稻藁に煮豆を包み、大豆が偶然発酵した可能性があるそうです。江戸時代になると、納豆売りが繁盛するほど普及しました。



●納豆が出来上がるまで

納豆は大豆を納豆菌によって発酵させて作る食品です。圧力釜で蒸しあげられ柔らかくなったり豆の表面に納豆菌を付着させ、40°C前後で20時間程度発酵させます。発酵が終わると冷蔵庫内に置いて、発酵で増えた納豆菌を休眠させることで熟成されます。

●栄養素の特徴

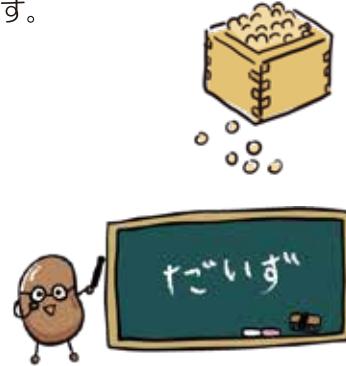
納豆には大豆に含まれる成分と、納豆菌や発酵によって増える成分が含まれています。



[ゆで大豆と納豆の栄養成分の比較]

(100gあたり)	ゆで大豆	糸引き納豆
エネルギー	163kcal	190kcal
炭水化物	8.4g	12.1g
たんぱく質	14.8g	16.5g
脂質	9.8g	10.0g
ビタミンK	7μg	600μg
ビタミンB2	0.08mg	0.56mg

「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」より



【たんぱく質】

血液や筋肉などの体をつくる主要な成分であるとともに、酵素やホルモンなどの生命の維持に欠かせない多くの成分になります。また、エネルギー源として使われることもあります。

【ビタミンK】

血液凝固に必要なビタミンです。また、骨の健康維持にも不可欠で、骨にカルシウムを取り込むのを助け、骨の形成にも関与しています。納豆の消費量が多い地域ほど骨粗鬆症による骨折が少なく、納豆の消費量が少ない地域ほど骨折が多いことがわかっています。さらに、血管の健康にも役立っています。

※医薬品のワルファリンを服用する方は、薬の効き目が悪くなるため、ビタミンKを多く含む納豆・青汁などの摂取を控える必要があります。



【ビタミンB2】

エネルギー代謝に関わり、とくに脂質代謝で重要な役割を担っています。また、皮膚や粘膜を正常に維持し、体の発育にも関わるため成長期の子供には欠かせない栄養素です。

■編集後記

寒中お見舞い申し上げます。2024年は甲辰（きのえたつ）の年となります。甲とは物事の始まりであり、辰は発芽した植物がしっかりととした形になる、勢いと大きな力、成功と捉えることができます。この2つが合わさる甲辰は、新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考えられています。みなさんが努力してきたことが成就する年になりますようお祈り申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



診療実績

2023年12月の当院の実績は以下のとおりです。

病床数：400 床

医師数（2023年12月1日現在）：78 名

外来延患者数：14,871 名

入院延患者数：7,820 名

手術件数：250 件